

# 「八潮スタンダードによる授業改善」



八潮市教育委員会

八潮市では、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査の結果において、授業で「めあて（課題）」を明確にしているなど、教員の授業改善が着実に図られてきました。一方で、教科に関する調査では、すべての学年・教科において「学力向上」は喫緊の課題であります。

このような実態から、八潮市では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、目指すべき授業展開を示したモデルである「八潮スタンダード」を、市内すべての小・中学校で活用することにしました。

## 八潮スタンダードの特徴 その1

八潮スタンダードでは、授業の展開を、次の4つの段階で捉えています。

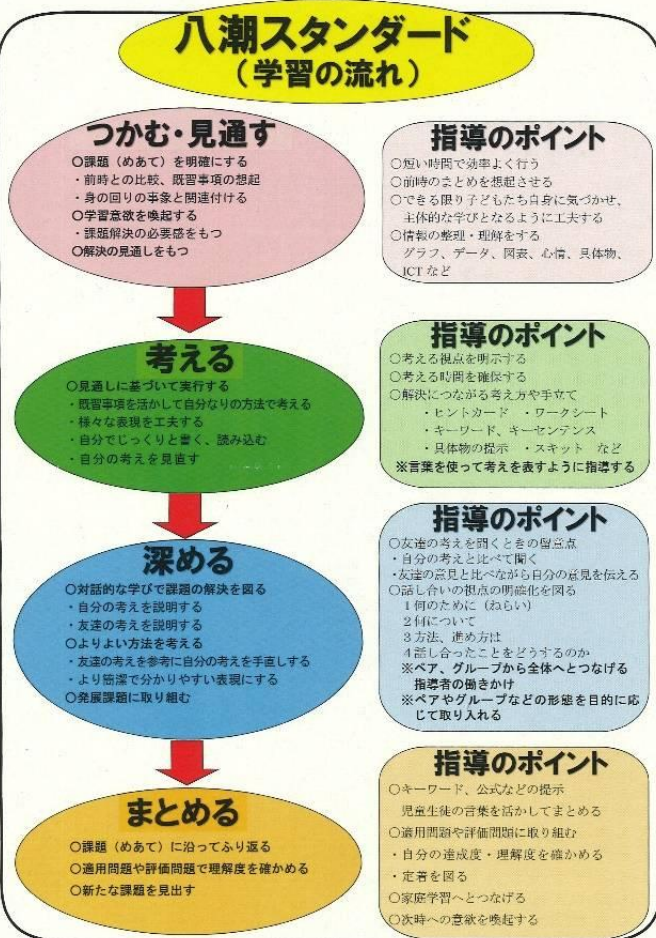
- ①「つかむ・見通す」 → 課題をつかむ
- ②「考える」 → 自分で考え表現する
- ③「深める」 → 集団で考え表現する
- ④「まとめる」 → 学習をふりかえる

## 八潮スタンダードの特徴 その2

八潮スタンダードでは、左側に授業の流れを示しています。右側には、各段階における「指導のポイント」を提示しています。

## 八潮スタンダードの特徴 その3

八潮スタンダードは、各教科の特性に応じて「国語版」「算数・数学版」「理科版」「道徳版」「体育版」「特別支援教育版」の各教科版があります。学校独自に八潮スタンダードをアレンジした「学校版」もあります。



## 「教師が教え込む授業」から「子供が考える授業」へ

学習への意欲や思考力・判断力・表現力を向上させるには、教師主導の授業から脱却し、子供自身が主体的に学び、考える授業へと転換を図ることが重要です。

八潮市教育委員会では、「すべての教科で活用できるように」という視点で「八潮スタンダード」を作成しました。課題（めあて）を明確にすること、見通しをもって活動に取り組ませること、対話的な活動を充実させること、振り返りの時間を確保することなどは、すべての教科等に共通する、授業の大切な要素であると考えています。

市内各小・中学校で八潮スタンダードによる授業を実践し、学力向上を図っています。

# 八潮スタンダードによる授業改善

## つかむ・見通す

目的を明確にする 既習事項を想起し解決への見通しをもつ

- まとめと正対するような課題をたてる。
  - 既習事項から子供が課題をたてる。「~しよう」ではなく、「なぜ~だろう」など子供の疑問から発したものにする。
  - 既習事項や経験と結びつけるなどして解決の糸口を示し、課題解決の意欲を高める。
  - 話題提示や資料提示の方法を工夫し、子供が主体的に学習に向き合うようにする。
- \*導入は端的に行い、短時間で行うようにする。

子供が課題を板書している学校もあるよ。



## 考える

根拠を明確にして、かく、つくる、考える

- 図、式、言葉、資料、叙述など教科の特性に応じたものを関連付けて考えさせる。
  - 様々な考え方をノートに書かせるようにし、自分の考えを説明する準備をさせる。
  - 多様な考え方を取り上げる順番を構想し、学びが深まるようにする。
- \*解決の状況を見て時間を調整するが、時間をかけすぎない。

## 深める

自分の考えを発表し、聞くことで考えを深め、広げる

- ペアやトリオで考え方を交流する。共通点や相違点を検討し、考えを練り上げさせる。意見の羅列で終わらないように話し合いの視点を示し、目的を明確にする。
- 考えを深めていく際には、ハンドサイン等を決めて、子供たちの力で考えをつなげて、深めていくようにする。
- 教師は、切り返しの発問を行うなど、子供たちの考えを深め、コーディネートをする。
- 図や表、資料を活用して発表させる。根拠となることを明確にさせる。

## まとめる

課題に正対してまとめる 学んだことを振り返る

- 課題に正対したまとめを自分の言葉で書かせる。
- 結果だけでなく、学んだ過程での気づきや友達の考えも書かせるようにする。
- 「どう考えて、何が分かったのか」を自分でとらえ直し、振り返らせる。
- 学んだことを定着させ、活用するよさを実感できるように類題や発展問題を解く。

## 「八潮スタンダード推進教員」による訪問指導

八潮市立小・中学校において、秋田県小坂町への相互研修を修了した「八潮スタンダード推進教員」（以下、推進教員という）を各学校に派遣しています。推進教員の指導技術を若手教員等が学ぶことにより教員の授業力の向上、八潮スタンダードを基にした授業改善を図ることを目的としています。令和元年度は、15名の推進教員が各学校で授業等の指導・助言を行いました。